

「共通テスト」で利用可能な 外部検定 申請結果を公表！ 大学入試で「定番」の外部検定が申請！

旺文社 教育情報センター 29年12月27日

今月26日、大学入試センターは、「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)における「大学入試英語成績提供システム」に参加申請をした、外部検定試験及びその実施団体を公表した。大学入試センターは11月、センター試験に代わる共通テストで利用可能な外部検定の参加要件を公表。その後、11月中旬から12月中旬にかけて参加申請の受け付けを行っていた。

今回公表されたのは、これに手を挙げた各検定だ。これから、要件を満たしているかの確認が行われ、来年3月末を目処に、認定された検定が発表される。

参加申請の要件等の詳細については下記を参照のこと。

http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/exam_info/2017/1109_1.pdf

【大学入試英語成績提供システムに参加申請を行った検定】

- 実用英語技能検定 (1級、準1級、2級、準2級、3級)
- TEAP
- TEAP CBT
- IELTS
- TOEFL iBT
- TOEIC (Listening & Reading Test、Speaking & Writing Tests)
- ケンブリッジ英語検定 (Proficiency、Advanced、First for Schools、First、Preliminary for Schools、Preliminary、Key for Schools、Key)
- リンガスキル
- GTEC (Advanced、Basic、Core、CBT)

英検や TEAP、TOEFL iBT をはじめ、従来から大学入試に利用されてきた主な検定が参加申請をしてきた。「リングスキル」は、ケンブリッジ大学英語検定機構が 30 年から新たに実施する検定だ。

【参加要件への対応】

11 月に公表された「参加要件」では、「1 回の試験で 4 技能すべてを測ることができること」、「高校等の教員は、自校の生徒が受ける検定の監督・採点に関わってはいけないこと」等が求められた。

これらの要件を満たすため、従来の試験方法からの変更等が必要となる検定もある。たとえば日本英語検定協会は、英検について以下のような対応を行うことを発表している。

【英検 30 年以降の変更点】

- 「従来型英検」の特別準会場としての実施…本会場に加え、離島・遠隔地の準会場（学校等）での実施については、試験監督者を派遣し、特別準会場として実施する。
- 「1 日完結型」の導入…高校 3 年生のみを対象とした方式。リーディング・リスニング・ライティングの 3 技能は従来と同様の PBT、スピーキングは録音による CBT で、1 日で試験を行う。31 年から準 1 級・2 級・準 2 級・3 級で実施予定。
- 「公開会場実施型」の導入…高校 3 年生のみを対象とした方式。リーディング・リスニング・ライティングは PBT、スピーキングは対面式で行い、2 日間をかけて試験を実施。従来の方式と同じ内容だが、1 次試験の結果にかかわらず、2 次試験の面接（スピーキング）も受けることができる。31 年から 1 級・準 1 級・2 級・準 2 級・3 級で実施予定。
- 「英検 4 技能 CBT」の導入…4 技能すべてを CBT 方式で、1 日で試験を行う。スピーキングは録音式。30 年 8 月から 2 級・準 2 級・3 級で実施予定。

特に 2 つ目の「1 日完結型」、3 つ目の「公開会場実施型」は、高校 3 年生に対象を限定しているところが大きな特徴だ（共通テストを受験する既卒生を含む）。

英検以外の各検定にも、参加要件を満たすため何らかの対応を取っているものがあるだろう。来年 3 月末を目処に入試センターから、認定された検定が発表される予定。ここで各検定の実施方法等の詳細も公表されると思われる。それより前に、上で示した英検のように、各検定の実施団体から発表される可能性もある。

今回の参加申請状況を見ると、今まで外部検定の「定番」として、個々の大学の入試で利用されてきた検定が手を挙げてきた形。次はこれらが問題なく認定されるのか、また実施方法や内容に変更があるのか、といった点に注目だ。